

問題 3 1 次の文章は、証券取引法に基づく財務諸表監査の意義ないし目的について説明したものである。文中の()に、下記の語句群から適切な語句を入れた場合、一度も使用されない語句が含まれている語句の組み合わせはどれか、一つ選びなさい。

証券取引法によれば、証券取引法の目的は()の適切な運営及び()に資するため、()及び売買その他の取引を()ならしめ、かつ()を円滑ならしめることにあるとされる。したがって、証券取引法のもとで実施される監査の目的は、()を念頭におきながら、()の作成した財務諸表が、()企業会計の基準に準拠して、企業の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況を()において()しているかどうかについて、監査人が自ら入手した()に基づいて判断した結果を()として表明することにあるとされる。しかし、これまでは、こうした財務諸表監査の目的が社会的に正しく理解されてきたとは必ずしもいえず、監査の役割について種々の理解が与えられてしまったために、いわゆる()が生み出されてきたことは否定できない事実である。また、バブル経済崩壊後に生じた一連の企業破綻に際して、経営者等による数々の不正事件が露呈したことから、とくに()と()との関係についての問題が提起されたため、監査人が財務諸表は適正に表示されているとの意見を表明することには、財務諸表には全体として重要な()がないことの()を得たとの自らの判断が含まれていることを明確にする必要も生じた。ここで()を得たとは、財務諸表の性格的な特徴や監査の特性等の条件がある中で、()としての監査人が()監査の基準に従って監査を実施して、()ではないが、()の心証を得たことを意味するものである。

< 語句群 >

ア．経営者 イ．相当程度 ウ．期待ギャップ エ．公認会計士
 オ．虚偽の表示 カ．一般に公正妥当と認められる キ．企業
 ク．国民経済 ケ．職業的専門家 コ．公正 サ．投資者の保護
 シ．適正意見 ス．適切 セ．すべての重要な点 ソ．適正に表示
 タ．有価証券の発行 チ．有価証券の流通 ツ．絶対的
 テ．合理的な保証 ト．監査調書 ナ．意見 ニ．監査証拠

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1 . ウケクツ | 2 . アコシニ | 3 . アカソテ |
| 4 . イキタナ | 5 . イオセチ | |

問題 3 2 監査人の意見および監査報告書に関する次のア～オの記述のうち、誤っているものが二つある。その記号の組み合わせを一つ選びなさい。

ア．重要な監査手続を実施できなかったことにより、監査人が除外事項を付した限定付適正意見を表明する場合には、実施した監査の概要において実施できなかった監査手続を記載し、財務諸表に対する意見において当該事実が影響する事項を記載しなければならない。

イ．財務諸表の表示が適正であると判断された場合において、当該判断について説明を付す必要がある事項又は財務諸表の記載について強調する必要がある事項を監査人が監査報告書において追記情報として記載する場合には、財務諸表に対する意見とは明確に区別して、監査人からの情報として追記しなければならない。

ウ．監査人は財務諸表の適正性についての意見を表明するに当たり、経営者の採用した会計方針が企業会計の基準に準拠して継続的に適用されているかどうかのみならず、場合によっては、その会計方針の選択や適用方法が会計事象や取引の実態を適切に反映するものであるかどうかを判断しなければならない。

エ．会計事象や取引について適用すべき会計基準等が明確でない場合には、採用された会計方針が当該会計事象や取引の実態を適切に反映するものであるかどうかについて、監査人は経営者とディスカッションしつつ、自己の判断に基づき、これを評価しなければならない。

オ．監査報告書の「実施した監査の概要」に関する記述においては、二重責任の原則、一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行ったこと、監査が試査に基づき実施されていること、および経営者によって行われた見積りの評価が含まれることなどを記載しなければならない。

1．アイ 2．イウ 3．ウオ 4．エオ 5．アエ

問題 3 3 監査人の独立性に関する次の記述のうち、不適切なものが二つある。その記号の組み合わせを一つ選びなさい。

ア．精神的独立性は、監査の実施に当たって公正不偏性を保持することを意味しており、監査に対する社会の信頼と権威を確立するうえで不可欠なものであり、公認会計士監査の成立基盤を支える大きな支柱の一つである。

イ．監査人の独立性は、一般の監査人の身分的・経済的独立性と精神的独立性から構成されている。この場合、身分的・経済的独立性に影響を与える可能性という観点から、精神的独立性の保持が必要とされる。

ウ．監査人は、監査契約を締結している企業から継続的に受け取る報酬が、監査人の収入の大部分を占めている場合、独立性の維持に疑義をもたれるような関係や外観を回避するために、直ちに監査契約を解除しなければならない旨の法規制がなされている。

エ．監査人の独立性は、専門的能力と実務経験および職業専門家としての正当な注意の行使と相互に密接な関連性を有しており、監査において監査人が遵守しなければならない基本的な要件を構成している。

オ．監査人の独立性は、公認会計士が行う法律に基づく監査においては、監査の種類にかかわらず、常に保持することが求められる。

- 1．アイ 2．イウ 3．イエ 4．ウエ 5．エオ

問題 3 4 わが国の監査基準に関する次のア～オの記述のうち、不適切なものはどれか、その記号を一つ選びなさい。

ア．監査基準は、帰納的アプローチに基づいて形成され、その基本的性格としては、「実践性」、「公正妥当性」および「規範性」等が挙げられる。監査基準のもつこれらの性格は、昭和 25 年に監査基準が設定されて以来、今日まで基本的に変化していない。

イ．監査基準は、証券取引法に基づく監査および株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律に基づく監査等の営利組織に対する監査のみならず、私立学校振興助成法に基づく監査等の非営利組織に対する監査においても遵守されなければならない。

ウ．監査基準が設定されなければならない理由としては、監査の品質を高水準に維持するため、監査制度を確立・維持するため、監査人の公正妥当な任務の範囲を限定するため等があげられる。

エ．監査基準は、財務諸表監査の国際的な水準での機能向上とともに、監査の基準の国際的な展開を視野に入れ、従来からの監査に加えて、消極的な保証業務であるレビュー等を含み、保証水準が異なる証明業務に対しても適用されるグローバルな基準である。

オ．監査基準の一般基準 7 では、監査人の守秘義務に関する基準を規定しているが、この守秘義務は、一般基準 3 の職業的専門家としての正当な注意に含まれる。しかしながら、監査人と企業との相互信頼関係を維持し、監査業務の効率的な遂行のため等の理由から、独立した基準として規定されたものである。

1 . ア 2 . イ 3 . ウ 4 . エ 5 . オ

問題 3 5 次の文章は平成 14 年 1 月改訂の監査基準の前文のうち、一般基準の改訂について記述した部分の一部である。この文章中の()に入る適切な語句を下記の語句群から選択したとき、一度も使用されない語句が含まれている組み合わせはどれか、一つ選びなさい。

近年の監査を巡る環境の変化は、従来的一般基準により監査人に求められていた専門的能力や実務経験、()、()性、注意義務などの要件を一層徹底させ、また、監査人の自主的かつ道義的な判断や行動に任せていた点を制度的に担保する方向へと動かすものになっていることも事実である。

それらの現代的な動向は従来一般基準では必ずしも十分に反映されていなかったため、改訂基準は以下の点でこれを改めることにした。

(1) 専門的能力の向上と知識の蓄積

< 本文省略 >

(2) ()の態度と()の保持

監査人は、監査の実施に当たって、精神的に()の態度を保持することが求められ、()の保持を最も重視しなければならない。そのため、()な態度に影響を及ぼす可能性という観点から、独立の立場を損なう特定の利害関係を有することはもとより、このような関係を有しているとの疑いを招く外観を呈することがあってはならないことを明確にした。

(3) ()

監査人としての責任の遂行の基本は、職業的専門家としての正当な注意を払うことにある。その中で、監査という業務の性格上、監査計画の策定からその実施、監査証拠の評価、()に至るまで、財務諸表に重要な()が存在する虞に常に注意を払うことを求めるとの観点から、()を保持すべきことを特に強調した。

(4) ()に起因する()への対応

財務諸表の()は、経営者による()の選択や適用などの際の判断の誤りのみならず事務的な過誤によってももたらされるが、重要な()の多くは、財務諸表の利用者を欺くために不正な報告(いわゆる())をすること、あるいは、資産の流用などの行為を隠蔽するために意図的な虚偽の記録や改ざん等を行うことに起因すると考えられる。そこで、監査人はこのような()に特段の注意を払うとともに、監査の過程において()を発見した場合には、経営者等に適切な対応を求めるとともに、その財務諸表への影響について評価することを求めることとした。

なお、()については、それ自体を発見することが監査人の責任ではなく、その判断には法律の専門的な知識が必要となることも多い。また、()は必ずしも財務諸表の重要な()の原因となるものではないが、監査人が重要な()につながる虞のある()を発見した場合には、()を発見した場合に準じて適切な対応をとることになる。

< 以下省略 >

< 語句群 >

ア．職業的専門家	イ．粉飾	ウ．意見の形成	エ．会計方針
オ．独立性	カ．不正等	キ．外観的	ク．虚偽の表示
ケ．不正	コ．違法行為	サ．職業的懐疑心	シ．公正不偏
ス．監査計画	セ．意図的		

1．イキシサ 2．ウオカシ 3．エカコク

4．オクコシ 5．イウカサ

問題 3 6 監査上の不正又は誤謬に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

ア．不正とは財務諸表の虚偽の表示の原因となる意図的に行われる行為であって、不正な財務報告と資産の流用とに分けられる。誤謬は無知や誤解などにより無意識的・非計画的に行われる誤りであり、結果として財務諸表の虚偽の表示の原因となる。不正と誤謬との本質的相違は意図的になされるか否かにある。

イ．不正は一般に、経営者によって行われるものと、従業員・第三者によって行われるものがあり、隠蔽工作や偽造行為を伴うことがある。一般に経営者が関係する不正で隠蔽や偽造を伴う場合には、これを監査人が発見できる可能性は誤謬に基づく財務諸表の虚偽の表示を発見する可能性に比べて相当に低くなる。

ウ．監査人は、会計上の見積りや会計基準の適用といった経営者の判断を伴う事項について虚偽の表示を発見した場合、不正の可能性を認識したとしても、不正であると断定することが困難な場合が多い。このような場合には、不正とみなして監査上の対応をすることが適切である。

エ．現代の監査は不正・誤謬の発見を第一義的な目的とするものではないものの、財務諸表の利用者の監査に対する期待に応えるため、財務諸表の重要な虚偽の表示を看過することなく発見できるように、職業的懐疑心を持って、不正及び誤謬に起因する虚偽の表示に関連するリスクの評価を含む適切な監査計画を策定し、監査を実施することが必要とされる。

オ．監査は記録及び証憑書類の真偽の鑑定を目的としたものではなく、監査人は鑑定の専門家である必要もない。したがって、監査人は、監査の過程において入手した記録及び証憑書類が真実であるかどうかの判断において、それらを真実として受け入れることが認められる。

1 . ア 2 . イ 3 . ウ 4 . エ 5 . オ

問題 37 会計上の見積りの監査に関する次のア～オの記述のうち、誤っているものが三つある。その記号の組み合わせを一つ選びなさい。

ア．経営者による過年度の会計上の見積りと実績が大きく乖離している場合、又は会計上の見積りを必要とする状況が過年度の状況と大きく相違している場合には、監査人は経営者による当年度の見積りに基づく会計処理を認めない。

イ．監査人が専門家を利用して会計上の見積りを行う場合などのように他から入手した見積りを利用する場合も、当該見積りは、監査人による独自の会計上の見積りに該当する。

ウ．監査人は、経営者が用いた会計上の見積りの方法を検討した結果、合理的でないと判断し、かつ監査人独自の見積りも実施できない場合は、監査報告書で除外事項を付した限定付適正意見を表明するか又は意見を表明しないことを検討する

エ．経営者による会計上の見積りが、監査人独自の会計上に見積りの許容範囲内である場合は、両者の差異額を、監査人が推定する虚偽の表示として、未訂正の発見した虚偽の表示の集計に含めなければならない。

オ．会計上の見積りは、仮定の設定などに関して主観的判断を伴うことが多く、一般に固有リスクの程度が高いと判断されるので、経営者が会計上の見積りに関する有効な内部統制を確立することはできない。

1．アウオ 2．アエオ 3．イウオ 4．アイエ 5．イウエ

問題 38 監査人による内部統制リスクの評価に関する次のア～オの記述のうち、誤っているものが三つある。その記号の組み合わせを一つ選びなさい。

ア．統制活動は、その機能により、所定の内部統制からの逸脱を防止する統制活動と当該逸脱を発見し修正する統制活動に分類される。

イ．統制環境は、それ自体により特定の監査要点に係る虚偽の表示の発生の可能性を低くする。

ウ．監査人は、内部統制に依拠して監査を実施する場合、主要な取引サイクルごとに理解した内部統制に基づいて、統制リスクを暫定的に評価する。

エ．内部統制の構成要素の一つである監視活動は、定期的監視活動と独立的評価又はこれらの組み合わせにより実施される

オ．監査人は、実施した統制評価手続により入手した監査証拠から、統制リスクの程度を暫定的評価より低く抑えることができると判断した場合、暫定的評価を改訂し、その改訂後の暫定的評価に基づいて、改めて統制評価手続の実施を検討する。

1．アウエ 2．アウオ 3．イウオ 4．イウエ 5．アエオ

問題 39 中間監査基準に関する説明について、次のア～オの記述のうち正しいものが二つある。正しい記述の記号の組み合わせを一つ選びなさい。

- ア．中間監査においては、「中間監査に係る監査リスク」(中間監査リスク)を合理的に低い水準に抑えるためには、どのような場合であっても、分析的手続は必ず実施し、その上で中間監査上の重要性や達成すべき中間監査リスクの水準に応じて、質問や閲覧の監査手続を追加実施することが原則である。
- イ．「経営者が採用した会計方針の選択及びその適用方法、中間財務諸表の表示方法に関して不適切なものがなく、中間財務諸表が有用な情報を表示している」という監査人の判断のうち、「不適切なものがない」とは、経営者が採用した会計方針が、一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して継続的に適用されていること、その選択及び適用方法が会計事象や取引を適切に反映するものであること、並びに中間財務諸表の表示方法が適切であることについて、これらに関して不適切なものがないという意味である。
- ウ．継続企業的前提に重要な疑義を抱かせる事象又は状況が前事業年度の決算日において存在していた場合には、当中間会計期間末までの状況の変化を検討して、中間会計期間末において再度、継続企業的前提に関する重要な疑義がなお認められるかどうかを監査人だけが検討し、中間監査報告書にもその検討結果に応じた記載をすることが大切である。
- エ．合理的な保証とは、中間監査の基準に基づき中間監査を実施して得ることのできる心証を意味している。中間財務諸表が有用な情報を表示しているかどうかについて、監査人が肯定的な意見を表明するということは、中間監査の基準に基づいて実施された中間監査の結果が、会計監査のプロフェッショナルとしての別の監査人によって実施されたとしても同様の結論に到達する蓋然性が高く、合理的な水準の心証が得られなければならないことを意味している。
- オ．中間監査は、中間財務諸表の有用な情報の表示について、意見を表明することにその目的がある。中間監査は、通常、年度監査と同一の公認会計士が監査人となり、每期継続して実施する年度監査の狭間において年度監査の一環として、年度監査と同一の監査手続を実施するので、監査人は中間財務諸表に係る投資者の判断を損なわない程度の信頼性を保証することができる。

1 . アオ 2 . イエ 3 . ウオ 4 . アエ 5 . イウ

問題 40 監査上の分析的手続に関する次のア～オの記述のうち、誤っているものが複数ある。誤っている記述の記号の組み合わせを一つ選びなさい。

- ア．固有リスクを見積る際、分析的手続において利用されるデータは、過年度の財務業績データやその他の財務情報に限られるわけではなく、一般的な経済状況や企業が属する産業の状況に関する情報が含まれる。
- イ．固有リスクを見積るために分析的手続が実施される場合、および監査要点の直接的な立証のための実証手続として分析的手続が実施される場合において、両者の場合に適用される分析的手続の手法は同じであって、推定値の精度も同水準でなければならない。
- ウ．分析的手続は、財務諸表の監査において、実証手続の一部を構成するので、財務諸表項目についての証拠収集手続として必ず実施しなければならない手続である。
- エ．分析的手続を実証手続として実施する場合、その実施から得られた証拠の証拠力は脆弱であり、それだけでは監査証拠にはなりえない。
- オ．ある財務諸表項目について分析的手続を実施した結果、推定値と当該財務諸表項目の金額との間に重要な乖離が発見されなかった場合には、監査人は新たな監査手続を実施する必要はない。

1．アエ 2．イオ 3．イウエ 4．アウオ 5．ウエオ